

HACHINOHE GAKUIN

CAMPUS

vol.32

キャンパス八戸学院

八戸学院



八戸学院光星高校硬式野球部 選抜大会出場



参議院議員 橋本聖子氏 講演会
演題「スポーツがもたらす地域活性化」



学校法人光星学院主催 第3回少年野球教室



新年の集い

— Contents —

■ 法人

- ・平成26年八戸学院 新年の集い
- ・第3回少年野球教室開催
- ・八戸市鷗盟大学移動講座開催

■ 八戸学院大学

- ・参議院議員 橋本聖子氏 講演会開催
- ・第86回日本学生氷上選手権大会
スピードスケート部とアイスホッケー部が出場

■ 八戸学院短期大学

- ・幼児保育学科主催「保育者養成懇談会」開催
- ・平成25年度八戸学院大学・八戸短期大学合同
企業研究会開催
- ・看護学科主催第3回卒業研究発表会開催

■ 八戸学院光星高等学校専攻科

- ・自動車科1・2年合同研修旅行を実施
- ・自動車科1年生の校外実習を終える
- ・2013ラジオ・チャリティーミュージックソンに参加

■ 八戸学院光星高等学校

- ・2014年春 第86回選抜高等学校野球大会 7回目出場
- ・イルミネーション点灯式 クリスマスの集い
- ・地元八戸市で平成25年度全国高等学校総合体育大会
第63回全国高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会
スピードスケート部とアイスホッケー部が出場

■ 八戸学院野辺地西高等学校

- ・平成25年度修学旅行を実施 沖縄・東京4泊5日の日程
- ・東北空手道選抜大会 女子団体形優勝

平成26年「八戸学院新年の集い」

「八戸学院新年の集い」が、2014（平成26）年1月6日（月）午後3時から八戸パークホテルパークホールにおいて開催され、来賓、法人役員、外郭団体代表、教職員の総勢約370名が出席した。ホールでは開宴までの間、平成25年11月6日（水）に催された「八戸学院フェスタ“絆”」の様子が3面の大スクリーンに映し出されていた。

はじめに、八戸学院大学木鎌耕一郎教授（司祭代理）による新年の祈りが行われた。

法官新一理事長の挨拶では、今年で法人創立58年目を迎え現在、幼稚園から大学まで56,399名の卒業生を輩出し、その中には地元地域はもとより全国・世界を舞台に活躍者が数多くいる現況が話された。教育面では、本学院における建学の精神や教育理念に立脚した教育実践に重きを置くこと。本学院は、カトリシズムに則り、個性の尊重・一人一人持つかけ



がえのない力を引き出すことができるような教育活動を行っていくことが、我々の使命であり経営の根本であることが話された。

そうした中で、今年度当初の辞令交付式の際には、第一に「八戸学院」という名称を冠に意識の統一を図ったこと。次に九つの方針を持って使命の確認を試みたことが述べられた。今年は、新たに次の四点の具体的な動きが発表された。

・一つは、短大の校舎リニューアル着手
耐震補強改修に伴い校舎のリニューアルに着手する。さらに、短大ライフデザイン学科を大学校舎へ移動する。

・二つ目は、大学・短大の教育改革
学生に視点を置き、教養教育・教育技術・キャリア教育について委員会を設けて検討した。その実施に向けて、教職員一体となって進めていく。これは後に、高校・幼稚園にも浸透させていく予定である。

・三つ目は、短期大学看護学科の四大化
昨年末、看護学科四大化推進のための準備室を立ち上げた。

現代の医療分野へのニーズに応えるために、より高度な医療技術者の養成を目的に四大化の早期設置実現を目指す。

・四つ目は、多目的室内練習場の設置
室内体育施設の強い要望が現実になってきたところである。特に大学・高校の



硬式野球部の目覚ましい近年の活躍があり、広くスポーツの振興や教育活動に大いに活用されることの期待のもとに一日も早い完成を目指す。

そして、間もなく迎える学院創立60周年の節目に向けて、明るく希望を持って臨むことを願い年頭の挨拶とした。

続いて、古川事務局長より、法人の事業概況報告がされた。

次に、理事長、学院主、大学・短大・高校および幼稚園の外郭三団体（PTA・同窓会・後援会）で出席されている会長の総勢12名による鏡開きが行われた。

その後、北澤美達理事の乾杯の音頭によって、新たな年がスタートした。

祝宴が始まり和やかな雰囲気の中、“白銀沖揚音頭保存会による「八戸白銀沖揚音頭・勇太鼓」”が勇壮に披露された。

最後に、外崎充子八戸学院短期大学学長より挨拶をいただき、一年の佳きことを願い、会をお開きとした。

あこがれの選手と！

少年野球教室



2013（平成25）年12月15日（土）に学校法人光星学院主催により「少年野球教室」を八戸市屋内トレーニングセンターにて開催した。少年野球教室の開催は2年ぶり3回目となり、八戸市内を中心に約100名の小学生が参加した。開会式ではご来賓の小林八戸市長並びに法官理事長の挨拶に続き、指導者の紹介が行われ、今回はプロ野球現役選手の中から、西武ライ

オンズの秋山翔梧選手、ヤクルトスワローズの川上竜平選手、千葉ロッテマリーンズの田村龍弘選手、社会人野球から七十七銀行より3名、ホンダ鈴鹿より1名のOBが紹介された。その後の実技指導では、子供たちはあこがれの選手たちを目の前にし、興奮した様子で歓声をとどろかせながら一生懸命にバッティング、スローイング・グローブの使い方等を教

わっていた。

約2時間の実技指導の後、プロ選手のサイン入り野球用具の抽選会と記念撮影を行い終了した。今回、参加できなかった八戸学院大学、八戸学院光星高校出身のプロ選手からも多くの用具を提供していただき、大変盛り上がった抽選会となり引率の保護者のため息交じりの歓声が印象的であった。



参議院議員 橋本聖子氏 講演会 演題「スポーツがもたらす地域活性化」

平成25年12月20日(金)、八戸商工会館3階ホールで八戸学院大学・八戸学院短期大学教育・研究・社会貢献後援会主催の講演会が行われた。講演会には参議院議員である橋本聖子氏を講師に迎え、「スポーツがもたらす地域活性化」というテーマでご講演いただいた。

講師紹介を担当した、富士急行スケート部時代の後輩にあたる船場亜希さん

(本学スピードスケート部監督)とのやりとりでは、お互いのことを聖子さん、亜希ちゃんと呼ぶなど親密さが感じられる一幕もあり、和やかな雰囲気の中で始まった。

講演では、建設が予定されている屋内スケート場の話題にも触れ、八戸のスケート人口を増やし市を挙げて盛り上げましょう、世界記録の出るスケート場にしましょう、など熱く語られた。また、世界一の選手が生まれるには、世界一のコーチ、世界一のスケートリンクが必要である

と述べられ、スピードスケート・フィギュアスケート・アイスホッケーは全て氷上のスポーツだが、それぞれに適した氷があり、その氷を作るスタッフも育てていかなければならないと話された。

現在、日本スケート連盟会長、日本オリンピック委員会常務理事などを務めている橋本氏は、議員の職だけでなく冬季五輪の団長を務めるなど様々な面で活躍されている。さらに、「東京五輪を機に日本は諸外国から尊敬、信頼される国になるのが目標」との持論を述べられた橋本氏は、国内のみならず国外にも目を向けておられ、これまで以上のご活躍が期待される。

講演会には多くの方々にご出席いただき、「人づくりが地域(まち)づくりにつながり、今後のスポーツ界の成長につながる」との言葉は聴講者の心に深く刻まれ、盛会のうちに終えることができた。



スピードスケート部、アイスホッケー部 ともに「インカレ出場」

平成26年1月5日から北海道帯広市において、第86回日本学生氷上選手権大会が開催され、本学からは4年ぶりに復活したスピードスケート部と2年連続通算14回目となるアイスホッケー部が出場した。5日に行われた開会式では、日本学生氷上競技連盟の小野高会長が挨拶、続いて同連盟に縁のある三笠宮家の彬子女王が、自身の大学スポーツへの思いなどを交え選手を激励なされた。

6日から始まった競技、スピードスケートの会場は世界大会も開催される明治北海道十勝オーバル。国内第一線級の精鋭が集う中、今年度より船場監督のもと活動を開始した西澤君、丹波さんの2名が出場し、残念ながら入賞には届かなかったものの全日本レベルの選手との戦いに手応えを感じたようであった。

アイスホッケー競技も6日から開始、本学は大会第1試合で関西の雄である立

命館大学と対戦した。第1、第2ピリオドと得点を重ねて試合を優位に進め、久しぶりのベスト16が期待されたものの第3ピリオド終盤に逆転され、昨年に続き1回戦突破はならなかった。

両部とも今回のインカレでは、新たな経験や様々な収穫を得たようであり、今後の活躍に期待したいところである。



「第35回全日本大学軟式野球選手権大会」に出場！ 「第34回東日本大学軟式野球選手権大会」

野球の花形は硬式野球であるが、軟式野球の世界もなかなか味わい深いものがあり、是非関心をもっていただければと願っている。大学軟式野球には全日本大学軟式野球連盟という組織があり、本学はその傘下の奥羽地区大学軟式野球連盟に属している。大学軟式野球の特徴は、監督やコーチを置くチームは少なく、学生が自主的に運営している点である。顧問である私も、普段の練習はどうなっているのかよく知らない。それからおしなべてレベルの差は小さい。つまり努力次第でかなりのところまでいける世界のようなのである。

2013年春に地区優勝した本学は、8月に長野で行われた第35回全日本大学軟式野球選手権に出場した。一回戦で開催地区の松本大学にあたり、完全にアウェイの空気であったが2対9の7回コールドで勝利。二回戦（準々決勝）では、南関東代表の神奈川大学と対戦し、ランニングホームランをもらうなどして8対2で大敗した。神奈川大学は準優勝であった。秋は東日本大会。東日本地区13連盟の代表26チーム、つまり地区で二校が出場できる。本学は第一代表として、11月に栃木で開催された第34回大会に出場したものの、一回戦で首都大学連盟の武蔵大学

に0対8で大敗した。相手は前日に優勝候補の日体大を下し調子よかったとはいえ、不甲斐ない結果であった。カンパにご協力いただいた教職員の皆様や、遠くまで同行して下さったバスの運転手さんに本当に申し訳ない気持ちである。全国大会出場は努力の賜物であり学生たちを素直に讃えたいが、欲を言えば全国大会優勝を本気で考え、もう一皮むけてもらいたいものである。しかしそこは自主性重視の軟式野球の世界、来年度はどうなることかさっぱりわからない。



平成25年度 冬季 教員免許状更新講習

平成21年度から始まった教員免許更新制度を受けて、今年も大学・短期大学において12月21日(土)から27日(金)の日程で冬季講習を開催した。この制度は教員免許の有効期間を10年間とし、更新時には2年間で30時間以上の講習受講を義務づけるもので、講習は文部科学省の認定を受けた大学が実施し、県内では本学のほかに弘前大学等で開催されている。

青森県南はもとより岩手県北をも含め

たこの地域で、最も多くの種別の教員免許課程を有する高等教育機関として夏季に引き続いての開催となったが、本学では必修1講習および選択10講習を開講し、延べ194名の先生方が受講した。受講者数は、今年度夏季・冬季を合わせて966名となり、過去最高を記録した。

現在は、平成26年度の8月および12月に予定している更新講習開催に向けて準備作業を進めているところである。



八戸市鷗盟大学移動講座開催

平成25年11月1日(金)、八戸市鷗盟大学の移動講座が八戸学院大学・八戸学院短期大学総合実習館で開催され、同大学の1年生約70名が来学した。

当日は大谷真樹学長による歓迎の言葉に続き、「生活の中に運動をとり入れよう」というテーマで、看護学科の市川裕美子助教による講義が行われた。続いて体育館へ移動し、幼児保育学科の橋本妙子教授による「健康体操」実技実習が行われ、ラジオ体操についてより効果的な体操が行えるよう指導を受けていた。参加者は実際に体を動かし汗をかきながら、真剣に取り組んでいる様子であった。昼休みには学生食堂を利用したり、希望

者を対象としたキャンパスツアーを行ったりするなどキャンパスライフを満喫している様子だった。

午後は841基礎・成人看護実習室へ移動し、短期大学の市川・佐藤真由美助教・坂本弘子助教による臥床患者のシー



ツ交換実習が行われた。実習では介護者と利用者に分かれ、介護技術のコツを学んでいた。

閉校式では参加者を代表して、鷗盟大学の学生代表がお礼の言葉を述べられ、好評のうちに終えることができた。



平成25年12月12日(木)八戸学院大学会館において、ジョブカフェあおもり主催の内定者報告会が開催された。

この報告会は八戸学院大学の1～3年生を対象に毎年実施しているもので、就職内定を獲得した本学4年生（5名）か

内定者報告会開催

ら、就職活動のポイントなどの体験談を具体的に聞くことができるイベントです。

さらに今年は、ゲストに企業の人事採用担当者2名と企業で活躍している本学卒業生1名をお迎えした。

参加した学生たちは、内定を獲得するまでの実体験をスーツ姿で話す4年生の報告を興味深くメモを取りながら真剣に聞いた。また、採用する企業側の求める人材像や実社会で頑張っている卒業生の生の声は大いに参考になり、これからの就職活動の展開に自信が持てたようだった。



「八戸学院大学」OB&OG訪問 part32



八田グループ 典礼部
川合 ひとみ さん
(旧姓 藤村)

プロフィール

青森県立三戸高等学校
八戸大学 ビジネス学部28回生
八田グループ 典礼部

■学生時代の思い出を聞かせてください

私は校友会に所属しており、球技大会や学祭の企画をしたことが思い出のひとつです。私はダーツサークルを立ち上げたメンバーのうちのひとりでもあり、学祭でダーツバーをイメージした出し物を出店させてもらいました（もちろんノンアルコールのカクテルを提供しましたが）。小学校・中学校・高校・大学の中で一番楽しかったのは、やりたいことがなんでもできた大学時代です。

■社会に出て感じることに心掛けていることはありますか

一番感じるところは、責任の重みの違いです。学生のときは、私たちがミスをしたとしても、事務の方々に助けていただいていたし、私たちの知らないこと

ここでサポートしてくださって、大ごとにはならなかったのだと思います。それが今では、自分のミスで多くのお客様にご迷惑をかけることになってしまいましたので、責任感を強く持ち自分のやるべきことをきっちりこなすことを心がけています。

■後輩へのメッセージ

学生のうちは、やりたいことをやる時間があるので、好きなこと、興味があることには思い切って一步を踏み出してほしいと思います。何がきっかけになるかはわからないので、何もしないで過ごすよりは、自分からいろいろなことに取り組むなど日々の積み重ねを大事にしてほしいです。そして、友人や周りの人を大切にし、周りへのありがたみを持って生活してほしいと思います。

平成25年度 保育者養成懇談会開催

幼児保育学科主催の「保育者養成懇談会」が11月29日(金)八戸プラザホテル・アーバンホールで開催された。

初めに外崎充子八戸学院短期大学学長より「校名変更」について、また、「地域社会に貢献する人材の育成を基本とする教育」、「最近の就職状況」などについての説明があった。

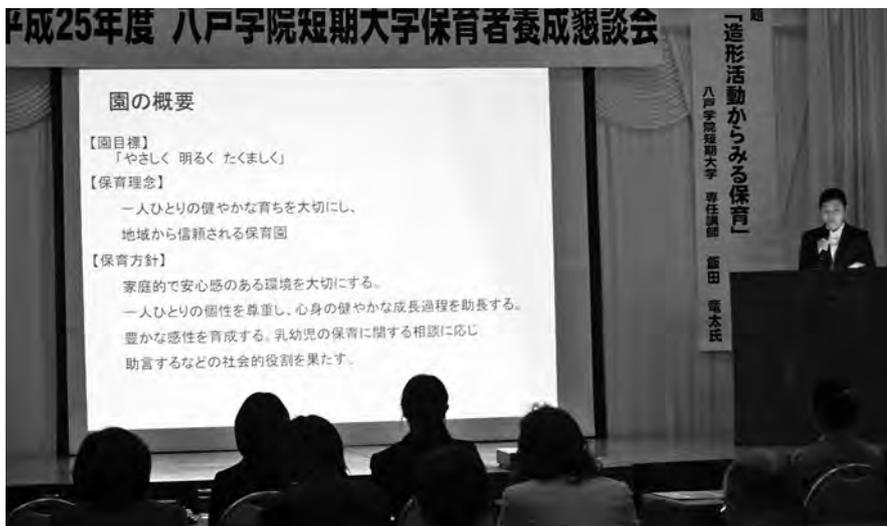
続いての研修会は、「幼児保育学科の教員が専門分野の研究を反映した学生へ

の教育内容を紹介すると共に、保育現場での実践と応用について伝える」という方針のもと、美術担当である飯田竜太専任講師による「造形活動からみる保育」と題した講演とワークショップが行われた。アンケートには、「絵の表現方法の幅が広がって目の覚める思いがした」「子どもの作品への言葉がけのしかたが参考になった」「ワークショップを通し、今まで自分が気付かなかったことを気付か

せていただいた内容だった」等、改めて幼児美術について考え、見直す機会になる研修だったという声が寄せられた。

次に、学生による司会進行と発表で、2年生が行った第Ⅱ期保育所実習、教育(幼稚園)実習、保育実習Ⅲ(施設)の実習報告が行われた。実習中に学んだこと、今後の課題として明確になったことなどを、実習中の映像等を交えて3グループが発表し、最後に川村 亨 三戸紫苑幼稚園園長より、今後の活躍を期待する暖かいご講評をいただいた。

青森県南と岩手県北唯一の保育者養成校である本学科が、地域の各施設の先生方と相互理解と連携をさらに深める為に、たいへん有意義な会となった。



ゼミナール研究成果発表会開催

平成25年12月4日、大学会館において、幼児保育学科のゼミナール研究成果報告会を開催した。幼児保育学科ではゼミナールⅠが1年生、ゼミナールⅡが2年生の必修科目になっており、毎年この時期に1年間の活動成果を報告している。12のゼミナールが発表を行ったが、活動内容が多岐に渡ることで、地域と連携した活動を行っているゼミが多いこと、演奏や演劇の要素を盛り込んだ楽しい発表が

多いことが特徴である。

最初に登場した佐藤愛子ゼミは今年充足したゼミナールで、学生は1年生のみだが、物語と音楽と演劇を融合させた発表には会場から大きな拍手が送られた。最も笑いが大きかったのは田中敬一ゼミの英語劇で、中心となった2年生のパフォーマンスに会場は大いに沸き立った。

また、「言葉と風景」をテーマにした安部ゼミは、写真を使った静かで詩的なパフォーマンスが感動を呼んだ。一方、地域との連携が印象深かったのは、いじめ

問題をテーマにした小川ゼミである。いじめの原因を追求するだけでなく、その改善・予防策となる教育活動を地域の小学校において実践した点が出色であった。



将来へ向けて

— 平成25年度 合同企業研究会開催 —

平成25年12月5日(木)八戸プラザホテルアーバンホールにおいて、青森県や岩手県を拠点とする企業や施設をはじめ、関東方面から59社の採用担当者にご参画いただき、平成25年度八戸学院大学・八戸学院短期大学合同企業研究会が開催された。

この合同企業研究会は、12月1日より解禁となる就職活動本番に備え、毎年この時期に本学独自のプログラムとして実施している。就職活動を間近に控えた八戸学院大学3年生と八戸学院短期大学ライフデザイン学科1年生の延べ100名が参加した。

学生達は、事前指導の一環として行なわれている11月の就職合宿において、企業の人事担当者から面接指導や講義を受けたこともあり、就職活動に対する心構えや熱意など、十分に伝わっている様子だった。

企業の採用担当者と面談を終えた学生の反応は、「あらかじめ企業研究をして、面談に臨んだが、説明を受ける前と受けた後では、企業のイメージが変わった。」「初めは関心のなかった業界や職業でも、事業所の方の説明を聞いていくうちにどんどん引き込まれ、もっと研究したいと思った。」など、普段の講義では体験することのできない緊張感や就職試験での心構えなど多くのことを学ぶことができた。合同企業研究会に参加した学生達は、

限られた時間を有効に活用し、真剣な眼差しで積極的に取り組んだ。

短大生にとっては、4月に入学したばかりで学生生活が1年終えないうちに、就職活動をしなければならない現実、不安や戸惑いを抱きながらの参加となったが、いざ本番を迎えると、緊張しながらも、堂々と面談に臨んでいた。

この経験を通し、今後の課題を解決しながら自分の将来に向かって、就職活動に取り組んでほしいものである。



看護学科 第3回卒業研究発表会

看護学科の卒業研究発表会が平成25年12月20日(金)に開催された。卒業研究は、看護学の専門分野から各自がテーマを決

定して2年次から取り組んできたものである。今年度は、第3回の発表会として、13グループから代表1名計13名が研究成果を発表した。研究テーマは看護に関する幅広い領域にわたり興味深いものとなった。また、今回は他学科の教員からも多くの質問が出され研究を発展させるための示唆を大変多くいただくことができた。さらには熱心に聴講した1・2年生たちからも質問がいくつか出されたことは研究に対する動機づけの強



さを反映するものではなかったかを感じている。1・2年生からは、「将来の自分の課題を考える参考にした」「先輩たちのように立派に発表したり、発表会を運営できるようになりたい」などの感想が聞かれ、全学年にとって有意義な時間であった。ご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。



自動車科の研修旅行が終了しました

自動車科1・2年合同の研修旅行を平成25年11月25日(月)～29日(金)の期間4泊5日の日程で実施しました。

この研修旅行は、2年に一度開催される東京モーターショーに合わせて実施しております。

研修旅行を通し、規律ある集団生活の中で先輩後輩の親睦を深め協調性を養うと共に、自動車業界の最新テクノロジーや省エネ対策への取り組み等を学習するためのものです。

今回の研修内容としては、初日は栃木県の「三菱ふそうトラック・バス(株)喜連川研究所」でトラック・バスの開発の様子や実験施設を見学しました。また、テストコースではバスを140kmで走行させ、またスリップをさせたときの状況はとても迫力があり印象的でした。次に神奈川県「コミュニケーション・プラザ川崎」

において高速道路の管制センターの施設設備の様子等を見学しました。

2日目は「東京スカイツリー」に昇り、都内を一望することができました。

また、当日は天候にも恵まれ遙か遠くに富士山を望むことができました。その後今回のメインとするところの「東京モーターショー」を見学しました。各メーカー選りすぐりの車が展示され、その中でも特にハイブリッド関係の省エネ対策車やそれに関連する機器や部品の展示もあり、



車の最先端の技術を知るにはとても有意義な見学だったと深く感じました。

3日目は「JAL羽田工場」で大型飛行機の整備工場を見学し、飛行機の点検整備の様子や、格納庫の天井から作業足場が吊り下げられた状態を見学することができました。また飛行機の離発着の様子を滑走路の脇から目の当たりすることができました。最後は都内の自主研修や東京ディズニー・シーで終わりました。今回の研修旅行で得たものは数多くあり、今後の学習活動に活かしていきたいと考えています。



自動車科1年生の校外実習を終えて

平成25年11月5日(火)～15日(金)の期間中、自動車科1年生24名全員が19ヶ所の自動車事業所に分かれて校外実習を体験しました。

この行事は毎年この時期に実施されますが、実習先は学生一人ひとりが自己の将来の就職を見据え本人が決めます。社会の厳しさを肌で感じながらも、学校で学んだ自動車の知識や技能がどれだけ通用するのか、試される場でもありますので学生達は大いに緊張しながらも貴重な実習体験をしました。

また、校外実習を体験した学生達は、終了後の感想として

○大変参考になった今後の勉強に体験を生かして行きたい。

○もっとこの期間が長ければいいのに……

○学校との雰囲気が全然違う。

○学校で未だ体験してないことを体験できた。

○体験した企業に是非就職したい。

○社会の厳しさを痛切に感じた。

○様々な車を整備できて良かった。

○自分には良い刺激になった。

○車検時の点検項目が勉強になった。

○会社の人が親切だった。

等を述べていました。ご協力いただきました各企業の皆様方には、心よりお礼申し上げます。



ボウリング大会が開催されました



平成25年度、最後の学生会行事となる「ボウリング大会」が、12月20日(金)の9時30分から「ゆりの木ボウル」に於いて開催されました。

開会式では、学生会会長の前田君の挨拶の後、田頭教頭の挨拶に続いて各クラス代表による始球式が行われ競技が開始されました。

競技は各レーン5～6名に分かれて行われ、2ゲームのトータル・スコアで争われる大会です。学生の中には、プロ級の腕前の人やガーター続出の初心者や

は独特のフォームで投球する人など幅広い選手層で行われ、好プレー・珍プレー有り、和やかで楽しい大会となりました。

今大会での成績は、男子の最高点者は、介護福祉科2年大久秀憲さん(委託生)のトータル353点、女子の最高得点者は、介護福祉科1年船渡ひとみさん(委託生)のトータル233点でした。

大会を通して、自動車科と介護福祉科との多くの学生間の交流を深めることができました。

1月16日に学校で表彰式が行われ、賞

状・トロフィー及び景品が伝達され、受賞した学生達は喜びましたクラスメイトから祝福の拍手が送られていました。



2013 ラジオ・チャリティ・ミュージックソンに参加して

昨年12月24日・25日にRAB主催のラジオ・チャリティ・ミュージックソンにボランティアとして介護福祉科2年生が2名参加しました。

このキャンペーンは「目の不自由な方へ通りゃんせ基金を」をキャッチフレーズに、昭和55年より毎年クリスマス・イブからクリスマスにかけて生放送を中心に実施しています。「音の出る信号機」を設置するための基金を募ることを目的にしていることはもちろんのこと、放送を通してからだの不自由な方々への理解

を深めていただくことも意図した活動です。青森県内では、これまで199,586,707円の浄財が寄せられ、この基金により県内各地に64基の「音の出る信号機」が設置されました。この他に「声の図書プリント用テープ」「盲人用カセット郵送ケース」などの視覚障がい者(児)用教育器材や交通安全用手旗も贈っています。今回の参加を通して、障がい者への理解と思いやりの心を育んでいくことの大切さを学んだように思います。



八戸学院光星高等学校

2014年春

第86回選抜高等学校野球大会 7回目出場

平成25年度秋季青森県高校野球大会では青森山田高校に敗れ準優勝でしたが、青森県第2代表として出場した秋季東北地区野球大会では県大会とは全く別のチームかと思わせるような素晴らしい戦いぶりです。2年ぶり4回目の優勝をすることができました。8月の新チーム立ち上げの時期に全日本のコーチとして台湾へ2週間ほど帯同したために、チームに迷惑をかけてしまい、不安の残るまま大会に入らざるを得ない状況でした。その不安を消し去る快進撃でした。まだまだ、チームは発展途上で安定した力はありませんが一つにまとまった時には想像できないくらいの大きな力を発揮してくれます。チームのスローガンである『一人一役 全員主役』を心の底から実践することができれば、前回大会以上の成績をあげることも夢ではないと思います。皆様の支えがあり野球をやらせていただいているということをお忘れず、甲子園では暴れてきたいと思っております。また、八戸学院光星高等学校として新たな歴史を刻んでいきたいです。

硬式野球部

監督 仲井 宗基



イルミネーション点灯式・クリスマスの集い

光星高校で冬に行われる行事といえば、イルミネーション点灯式と、クリスマスの集いである。今年度は、12月2日に点灯式、20日にクリスマスの集いが行われた。今年の点灯式は、吹奏楽部による演奏と、生徒会によるカウントダウンで、



リニューアルした飾り付けが、赤・青・緑と色鮮やかに点灯した。その様子は、新聞記事、テレビニュースでもながれ、広く地域の方々へ紹介された。日が落ち始めると点灯する鮮やかなライトで、学校関係者はもちろんのこと、通りを歩く一般の方へも、心の安らぎを与えている。また、伝統ある行事、クリスマスの集いは、聖歌・聖書の朗読・吹奏楽部によるクリスマスソングの演奏と、盛大かつ厳かに行われ、一足早いクリスマス気分を演出し、2学期の締めくくりにあざわしい行事であった。



思い出の修学旅行

今年度の修学旅行は「学年としての絆を深め仲間と共に成長する」をテーマに、11月18日から4泊5日の日程で実施されました。一生の思い出に残る充実した旅行にするため早々に準備を始め、平和学習と見学や体験などのバランスを考慮し旅行先を広島・関西・東京方面に決定しました。

広島平和公園の慰霊セレモニーに際して生徒はその場に応じた態度で臨んでくれ、空気が一変するほど立派に終える事ができました。神秘とロマンが薫る宮島は、海の中に立つ朱色の大鳥居が強く印象に残りました。仏の大きな力にすがろうとして造られた奈良の大仏さまの大きさに圧倒され、また清水寺では舞台の上

から紅葉を満喫した後、音羽の滝で学園成就を願い霊水をいただきました。なんばグランド花月で本場のお笑いを堪能し、日本復活のシンボルでもある東京スカイツリーを間近で仰ぎ見ることもできました。多くの地を訪れあつという間の5日間でしたが、八戸駅に降り立った生徒の姿に一回りの成長を感じ、何事も無く帰って来れた事を多くの人に感謝しながら安堵感で一杯になりました。

旅は人を成長させます。友達の意外な一面を発見し、普段話さない人と仲良くなれてクラスの絆は確実に深まりました。その後の感想文を読んで修学旅行の目的は十分に果たせたと実感しました。今後とも日本文化の素晴らしさや平和の大切さ

についてさらに理解を深め、旅行で学んだ協調性やマナーを残りの高校生活に是非活かしてほしいと思っています。

終わりに、印象に残った生徒の感想文の一部を紹介します。

『今回の修学旅行のテーマのひとつである「平和の大切さ」について考えることができました。平和記念資料館に展示している被爆の惨状を示す写真や焼けこげた服などを見て、原爆の投下は人類の犯した最大の過ちであり二度とこのような悲惨な出来事を起こしてはいけなく強く感じました。戦争が無く普通に生きて行ける今の日本は幸せだと思います。今出来る事を精一杯頑張っってこれからの生活を過ごして行こうと思いました。』



教育講演会

— マルガリタ准教授講演 —

平成25年11月25日(月)本校体育館において、系列の八戸学院大学人間健康学部フォステル・マルガリタ准教授をお招きして教育講演会が開催されました。本校では年に数回、さまざまな分野の講師を招いて、全校生徒を対象にした講演会を行っています。

今回のマルガリタ准教授は「人格の心

理学」と題して講演し、心理学では一人一人異なる人格がどのようにつくられるか。また、人格をどのように調べ、評価するかが問題として取り上げられると説明していました。

また、人格をつくる要因には「遺伝」と「環境」の二つがあり、「親から受け継がれる遺伝は変えることはできないけれど、環境は自分で変えることができる」との説明があり、「より良い人格をつくるためには、何事にも積極的な態度を保つことと、向上心を持って努力すること。勇気と度胸があれば、成功への道は開ける」と生徒達に語りかけて



マルガリタ准教授

くれました。

講演が終わり生徒達に感想を聞いてみると、「今までは、心理学というと『人の心を読む』という難しいイメージが強かったが、講演を聴いて、「そうではないことがわかり、興味がわいた」とか、「今の環境に満足せず、自分を高める努力をしたいという」前向きな感想が非常に多く、これから社会へ飛び出す生徒達には自分を見つめ直す良い機会となりました。フォステル先生本当にありがとうございました。



第24回青森県学生いけばな競技会



11月3日文化の日に、青森県観光物産館アスパムにおいて、中学校・高等学校・短期大学・大学の16校の生徒・学生

117名が参加し、「第24回青森県学生いけばな競技会」が開催されました。本校は、3年連続3回目の出場でした。今年度は、本校から18名の生徒が参加しました。

本校では、総合的な学習の時間に、いけばなと茶道、着付けやマナーの学習をしています。競技会にあたっては、いけばなの授業のほか、補習も実施して本番に臨みました。

競技会は、10時30分より開始されました。競技は、花器と花材を指定され、40分で生け込みをおこなうものです。今回の花器は、半円形花器、花材はユー

カリ・カーネーション2本・クルトン2本でした。

結果は、今年度は、過去2回よりも好成績で、2名の優秀賞と5名の準優秀賞をいただくことができ、県内で最も入選者の多い学校となりました。

3年連続でたくさんの入選者があり、本校での学びのレベルの高さが感じられました。これも一重に、日頃ご指導いただいている小原流八戸支部長の荒瀬豊波先生のご指導のおかげと深く感謝しています。

これからも光星高校でいけばなを学ぶ生徒が、お花に親しみ、技術を磨き、日本の伝統文化に興味を持ってほしいと思っています。

入選者は、以下のとおりです。

| | |
|------|---|
| | ()は出身中学校 |
| 優秀賞 | 橋本 千拓(湊) 山下 里奈(階上) |
| 準優秀賞 | 圓子 千恵(大館) 小川 優(是川) 長谷部美紀(湊) 畑 幸菜(大館) 四戸 雅也(湊) |



沖繩 東京 修学旅行

12月6日から四泊五日の日程で沖繩・東京への修学旅行が実施された。沖繩までは飛行機での移動であったが、初めて搭乗する生徒が多数おり、離陸すると歓声があがり、機内は笑いに包まれた。

沖繩では平和学習の一環として、『道の駅かでな』から、米軍嘉手納基地を見学した。また、平和記念公園やひめゆりの塔・資料館では太平洋戦争中の沖繩の人々の様子や、敗戦後の沖繩の歴史を学んだ。資料を読み、今の我々には想像できない悲惨な状況であったことを知り、

目に涙を浮かべている者もいた。

沖繩一の人気スポットである『美ら海水族館』では、初めて見る巨大な水槽とジンベイザメに圧倒されながらも、ゆったりと泳ぐその姿に目を奪われ、時間が経つのを忘れるほどであった。

東京では、スカイツリーがまさかの営業中止となってしまった。これは悪天候によるものだったが、東京見学の目玉であっただけに残念だという声が多く聞かれた。

旅行を通じて感じたことは、生徒たち

の購買意欲である。不景気なんてどこ吹く風。行く先々でお土産を購入し、中には沖繩でお小遣いを使い切ってしまった者もいた。

帰りの新幹線では旅行の疲れが出たせいか、ほとんどの生徒が眠っていた。七戸十和田駅へ到着すると、「やっと帰ってこられた」という安堵の声も聞こえた。解散式後、各路線ごとのバスに乗り、それぞれの思い出を胸に帰路についた。





野辺地西高校サッカー部

～「原点回帰」～



野辺地西高校サッカー部は「原点回帰」の言葉のもと、常に初心を忘れずに何事も謙虚に取り組んでいくことを部訓として日々活動している。勝利者になるためにサッカーの技術だけでなく、人間性の強化を目的に様々な取り組みを行っている。

①アルバイト活動

冬期間は豪雪により練習環境が制限されることからアルバイトを通して、遠征

費用を自らの手で得ること。収入を得るための大変さを学ぶ。また社会人との関わりから人のつながりを学ぶ。社会の厳しさを学ぶ。

②キャプテン持ち回り制度

一人一人が監督の目を持ち、それぞれがキャプテンの目を持つことを目的にキャプテンの持ち回り制を実施している。チーム作りを監督に委ねるのではなく、みんなで作り上げていく。トレーニングメニューも自分たちで必要なものを考え、やらされるのではなく自分たちのために自分たちが率先して取り組む。練習後にその日のキャプテンがスピーチをして自己の取り組み、チームの取り組みを自

らの言葉で表現する。人前で話すことが苦手な選手もいるが、自分の人間性向上のために、そしてチームのためにやらなければいけない。

前にも述べたようにサッカーだけをやっていたらよいわけではなく、人間性（人間力）の強化が重要である。それが苦しい試合や追い詰められたとき、極限の状態になったときに、これまで培ってきた困難や辛抱から得た忍耐力を自信に変え試合の中で発揮できるのである。

3年間の部活動。高校サッカーを通した1000日間の修行であると考え、選手としても人間としても成長し次のステージで成功して欲しい。そのステージへ何を持って進んでいくか、社会でどう勝負していくのかのヒントが高校生活にはたくさんある。原点回帰のもと、物事をはじめた時の楽しさや苦しさ、努力を忘れない人間性、常に前向きに考えチャレンジしていく姿勢を身に付けて卒業を迎えて欲しい。人生で苦しくなったときに立ち帰る場所が努力を重ねた高校生活である。

(サッカー部監督 三上 晃)



空手道部 女子団体形優勝！！

1月24日～26日の3日間、秋田県立武道館で開催された東北空手道選抜大会において、6年ぶりに女子団体形優勝を遂げた。また、女子団体組手3位、女子個人組手においても寺島晴菜（2年）が1位と好成績を収め、全国選抜大会3種目の出場権を獲得した。

ここ数年、予選を通過できず苦しい状態が続いていただけに、この戦績は久し

ぶりの快挙となった。

12月に河北杯争奪全国大会（仙台）、1月に桃太郎杯全国錬成大会（岡山）にて強豪校との試合を経験させたが、特に戦術について良い刺激を受け、練習嫌いだった選手達に意欲が見られるようになっていた。それがすぐに東北選抜大会の好成績へとつながり、本当に幸運だったと思う。決して万全なチーム体勢で臨

んだ大会ではなかったが、優勝という喜びが選手達に大きな自信を与えてくれた。この時期にしてやっと「勝ちたいチーム」の条件が揃い始めている。大会まで約2ヶ月しかないが、全国の舞台上に上がれることに感謝し、隙のない戦いが出来るよう最善を尽くしていきたい。そして、選手と共に期待で胸をワクワクさせながら、全国選抜大会を迎えたいと思う。



トピックス

献血

12月16日(月)日本赤十字社(青森県赤十字血液センター)、学校献血が行われた。

血液は各医療機関で利用されるが、冬場は特に血液が不足するそうだ。

協力者は職員、生徒合わせて30名の協力があり、400ml 献血17名、200ml 献血13名で約10000mlの血液が集った。

生徒達はなるべく針を見ないように顔をそむけたり、歯を食いしばる生徒もいながらも進んで協力してくれた。

身近なボランティア活動である献血。また来年、1人でも多く協力者が募ればと思う。



文化スポーツ発表会

12月19日(木)本校体育館で第3回文化・スポーツ発表会が行われた。

第1部では各部活動の代表者による今年の成果発表や反省、来年の活動に向けての意気込み等が話された。どの部活も一生懸命活動しており、目標達成への道のりや戦績などを熱く語った。

第2部では各部活動の実演発表で、運動部では空手道部の演武、文化部では、もの造りクラブのロボット実演、人間福祉系列の生徒によるピアノソロ演奏、また吹奏楽や合唱など盛りだくさんの内容で行われた。

今後ますますの各部活動の活躍に期待したい。



カンボジア募金

10月に行われた野西高祭において光星高校の呼びかけで、カンボジアについての展示を行った。

地理や文化の違い、首都部と農村の貧困格差が大きい事、また新生児の20%は1歳の誕生日を迎える事が出来ないなど、日本では考えられない現実がある事を知り、日本の豊かさに改めて感謝である。

また、カンボジアの子ども達に文房具を贈ろうと寄付・募金活動を12月初旬まで行い、鉛筆、ノート、色鉛筆などの文房具と募金が現地へ贈られた。

人への思いやりの気持ちを大切に、これからも支援活動を継続していきたい。



冬期避難訓練

11月29日(金)2校時、地震を想定した冬期避難訓練を行った。生徒は緊急地震速報に反応、アナウンスに耳を傾け、教員の指示誘導に従って行動した。

夏の訓練で行った、消火訓練、三階からのロープでの避難とは違い、今回の訓練では地震発生時の身の守り方、正しい避難経路を再確認することが出来た。

3.11直後は防災について敏感になっていたものの、年月を経ることで気の緩みが生じる。日頃から防災について意識していなければとっさの判断が生死を分けることになる。この訓練で身につけた防災意識を忘れず、安全な学校生活を送らせたい。



アイスホッケー部

第63回全国高等学校アイスホッケー競技選手権大会が平成26年1月20日(月)から24日(金)の日程で、地元八戸市に於いて開催された。今年度のアイスホッケー部は、1年生7名、2年生5名、3年生7名の計19名で構成され、青森県予選を準優勝して全国大会の出場権を獲得した。大会は全国から26チームが出場し、トーナメント方式で行われる。1月6日の抽選の結果、1回戦は栃木県の今市高校に決まった。

大会当日、試合会場の福地アイスアリーナには、平日にもかかわらず、保護者会の皆様やアイスホッケー部のOBが

たくさん応援に駆けつけてくれた。緊張の中、始まった試合は、4分過ぎにキャプテン磯谷のアシストで3年生の河村が先制点を挙げると、7分、9分と効率よく点数を重ね、結果18-1の大差で勝利することができた。続く2回戦は神奈川県の高豪校、武相高校に決定した。ベスト8をかけた試合は、第1ピリオド3分過ぎに失点したものの、その後は全員で守り切り、僅か1失点で終えた。続く第2ピリオドは、相手チームにペースを握られ、中盤に3点を奪われたが、キャプテン磯谷が1点を返し、トータル4-1

の3点差で終えることができた。3点差を追う第3ピリオドであったが、相手校の気迫とスピードに翻弄され、最終的には5-1の4点差で敗退となった。結果は目標のベスト8には届かなかったが、関東地区の高豪校、武相高校と中盤まで互角に戦えたことは大きな自信になった。来年の苫小牧大会はベスト8に入れるように頑張りたいと思います。



スピードスケート部

平成25年度本校スピードスケート部は、県高校総体女子優勝(2年連続)し、伝統継承を感じさせる年になりました。

今年度の部員数は男子2名、女子3名、計5名で、春から陸上においてサーキットトレと自転車、ローラースケートなど多岐に渡る練習内容で、体力作りに励み地元開催のインターハイに臨みました。インターハイ開催前は積極的に練習に励み、特に1年



生の磯嶋真波の活躍はめざましく、東北大会3000m優勝や1500m準優勝などの結果を残しました。また青森県選手権大会では4種目すべて優勝し完全優勝を果たしました。

今年度は、八戸学院大学のスケート部が復活し、スケート部監督船場(旧姓成田)亜紀さんの助言も仰いでいることが良い成績に繋がっていると思います。

今年度は地元開催のインターハイに選手達はいつも以上に意気込んで出場しましたが、全国大会という独特の

雰囲気緊張を誘い、自分の実力を十分に発揮できず、入賞することはできませんでした。全国との実力差を見せつけられた大会になりました。しかし、1、2年生はこの経験を活かし、そしてバネにして、来年度以降の競技生活に生かしてほしいと思います。

また、地元開催のインターハイでは多数の方々からご協力を戴き無事に大会を終了することができました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。今後ともスピードスケート部をよろしくお願ひします。

理事長散策

年の暮れに盛岡に出張のため八戸線に乗った。途中の駅から二人の可愛い女兒を連れてご家族が乗り込んできた。ご主人から挨拶を受けて、なんと本学院のI先生だった。気づかなかったことに大反省でした。聞くと静岡県のご出身。寒い八戸でご家族ともども本学院のためのご尽力いただいていることを思うと、頭が下がる思いでした。久々の里帰りに、二人のお子さんもとても嬉しそうに見えた。

さて、今年、張り切って教育の現場を訪れる宣言をして、あちこち見させてもらいましたが、今回は幼稚園の活動について感想を述べたいと思う。師走の幼稚園は恒例のXマスお遊戯会で賑やかでした。12月7日は附属幼稚園で、大所帯の幼稚園らしく八戸市公民

館で一部、二部に分けての公演でした。観客席は保護者で一杯。ステージの子供達も全員整列すると、ステージから溢れるくらいの人数で記念写真撮影でした。それでも発表は一人ひとりの園児にスポットが当たるような、指導のきめ細かさも感じました。

14日は美保野の大学会館で、聖アンナの発表会でしたが、キリスト降誕の聖劇を見事に演じていた。長い台詞も一生懸命で先生達の指導の力を感じました。キャンドルサービスも厳かな雰囲気の中で行われ、純真な子供達の仕草が大人の心も清純にするようでした。

第二しなのめの幼稚園の発表の日、22日は、ちょうど八戸を離れているので、練習風景を見に行きました。発表を控えて練習もだんだん佳境に入る頃でした。



大学会館の大講義室では、先生達の熱の入った指導が展開されていた。園児も一生懸命それに応えるよう、真顔になって取り組んでいた。園児も教員も帰宅したら、疲れてぐったりだろうと思った。22日はきっと成功と期待して、大講義室を出た。

幼稚園の忘年会にも参加した。女性が多い忘年会も初めてでしたが、とにかく元気で笑いが絶えないのに驚いた。元気で明るい先生達がいるのは、幼稚園教育にとって一番です。

子どもが主役 ～クリスマスおゆうぎ会～



＝マスコット『ステラちゃん』お披露目＝

幼稚園のシンボルツリーに、12月恒例のイルミネーションが点灯されました。職員のハンドベル演奏に合わせて歌をうたい、ひとつの大きな幸せの輪ができました。子ども達の元気な掛け声でカウントダウン。賑やかな歓声とともに光が閃り、キラキラ輝くイルミネーションとキラキラ光る子ども達の姿がありました。

さて、12月は、日々の音楽、言語、体育の活動の発表の場であり、子ども達にとって大きなイベント「クリスマスおゆうぎ会」が開催されました。

当日は大好きな家族の皆さんの前で、ドキドキして不安がいっぱいだった子ども達。でもそれ以上にワクワクいっぱい楽しい気持ちで素敵な歌やリズムにのり、

お遊戯発表することができ、たくさんの拍手、声援をいただいて一部が終了いたしました。友だちと一緒に目的に向かって力を合わせる楽しさ、やり遂げる達成感や満足感を行事を通して味わってくれたことと思います。

いよいよ第二部は、子ども達が楽しみにしていたクリスマスプレの始まりです。子ども達やお客様の前に附属3園のキャラクターマスコット「ステラ」ちゃんが登場。この日が初のお披露目となり、子ども達はかわいい「ステラ」ちゃんに大喜びで一緒に歌をうたったり、写真撮影をして楽しいひと時を過ごすことができました。

「ステラ」の由来は、イタリア語で「星」という意味です。子ども、教師、保護者

と手を取り合い、いつも輝き続ける八戸学院短期大学附属幼稚園でありたいと願っています。

最後にサンタクロースさんからプレゼントをいただいて『クリスマスおゆうぎ会』と『ステラ』ちゃんのお披露目で幕を閉じました。

今日も子ども達のすてきな笑顔、家族の皆さんの幸せが見られた嬉しい一日になりました。



八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ



毎年、聖アンナではクリスマスを迎えるまでの間、この時期ならではの楽しみがあります。八戸大学のチャペルで行われるプレクリスマスでスライドを見ながらクリスマスに因んだ話などを聞いた後、園内にはリースやツリーが飾られクリスマスを迎えるための準備が始まります。給食のお祈りの時、りんごろうそくに火を灯したり、クリスマスブーツを縫ったり、クッキーを焼いたり、讃美歌を歌いながら子どもたちはゆったりと時間をかけてクリスマスが来るのを楽しみに待ちます。

クリスマス会では聖劇のほかに、りんごろうそくでのキャンドルサービスがあります。ろうそくに点火しながら子どもたちによる「5つのプレゼント」が朗読されます。「1番目は聞くことのおくり

もの。2番目はほほえむことのおくりもの。3番目はゆるすことのおくりもの。4番目は感謝することのおくりもの。5番目はほめることのおくりもの。」どれも子どもたちが、周りの人に対してそういう人であってほしいと願う大切なプレゼントです。最後に世界中の人たちが平和なクリスマスを迎えることができますようにという願いをこめて、ろうそくの火を消します。いつも当たり前のよう過ぎている穏やかな日常こそ幸せなのだということを家族とともに感謝しながら。

クリスマス会が終わってから冬休みま



での間、りんごろうそくのコーナーは大人気で点火したい人の列ができます。小さい人にとっては憧れの特別な瞬間です。ろうそくの火を見つめながら小さな手を合わせる姿は、実に嬉しそうでどの人もとても良い表情をしています。ツリーに飾ったクッキーがいつの間にか食べられていたり、ろうそくのリんごにかわいらしい歯形がついていることも！

本当のクリスマスはそれらすべてが終わってから訪れます。年に一度、この特別な時を過ごしながら子どもとともにクリスマスを楽しみ、私たちが生かされていることに感謝したいものです。



八戸学院短期大学附属幼稚園第二しのものめ

PTAすくすく会

PTAすくすく会では、4月のママ友つくろう会を始め、手作りのつどい、ポケットフェスタ、バドミントン交流会、そしてお料理講習会など、一年をとおしてたくさんの活動が行われています。

PTA委員の方々からすくすく会員の皆様へ発行されている「すくすくだより」では、活動の紹介やお誘いなど、保護者の方の視点から情報が発信され、保護者同士の相互の親睦を深めています。

11月21日(木)と12月5日(木)には、八戸学院短期大学の先生を講師にお招きして、



お料理講習会が開催されました。

11月は、時短レシピで「寒さ」に負けない体を作るメニュー、12月は、子ども



と一緒にクリスマスをより楽しみチャレンジできるレシピと、充実した内容で行われ、先生とのやり取りも和気あいあい、楽しい雰囲気で行われました。

PTAの活動をとおして、様々なことに積極的に取り組むお母様方の姿は、子どもたちの様子をみても感じられます。

子どもを真ん中にママ友の和が広がり、親子でよりよい幼稚園生活を過ごしていただきたいと思います。そして、このようなPTA活動に幼稚園が支えられていることにも感謝しています。



おゆうぎ会

12月22日(日)は、子どもたちがとても楽しみにしていた2学期最後の行事、「お遊戯会」が開催されました。

会場となった八戸学院美保野キャンパスの学生会館は、園児・保護者の皆様の熱気に満ち溢れていました。

お遊戯会は、各クラス趣向を凝らしたプログラムで、子どもたちはステキな衣装を身に纏い、今まで役になりきって楽しみながらの練習の成果を、お家の方に見ていただくこと、思う存分自分を表現していました。

ひよこ組(満3歳児)は、元気な子猫

に扮して、りす組(3歳児)の女の子は、真っ赤なサンタの衣装を着て、男の子は、いたずらなアライグマに変身して、うさぎ組(4歳児)は、大リーガーを夢見る野球選手になりきって、女の子は色とりどりのアンブレラを上手に使用して、発表しました。きりん組(5歳児)は、女の子は着物姿で艶やかに、また、アラビア風の綺麗なベールをつけて、男の子は宇宙ヒーローの如くかっこよく、ステージでは豊かな表現で、自信をもって発表していました。また、言語劇は、それぞれの年齢に応じた内容でメッセージ性のあ

るものを発表し、保護者の皆様にたくさん拍手をいただきました。どの子どもたちも、やり遂げた自信と喜びに溢れ、会場にお集まりいただいた皆様と楽しいひと時を過ごすことができました。

また、この日、附属幼稚園3園のマスコット「ステラとチッチ」が登場し、皆様に初めてご挨拶をすることができました。これからも、行事など様々な場面で登場することと思いますので、皆さんよろしくお願いたします。



